

2020 年度事業計画

(自 2020 年 2 月 1 日～至 2021 年 1 月 31 日)

公益社団法人 日本薬学会

I はじめに

日本薬学会は約 17,000 名の個人会員と約 200 の団体・企業の賛助会員を擁し、1880 年の創設以来 140 年の歴史と伝統を誇る薬学における中核的学術団体です。これまで「くすり」「薬学」をキーワードとするあらゆる学術活動、すなわち創薬から医療までを包括した学術活動、また基礎科学から応用科学までの広範な専門領域に関する学術活動を支援して参りました。2020 年度におきましても、学会の皆様との支援と学会の発展のために種々の取り組みを進める所存です。

学術講演会の開催は、本学会の最も重要な学術活動の一つであり、学会創立当時から開催されてきた年会は2020年3月25日から28日まで京都で開催されますが、今回は140回目という節目を迎えました。「『創』と『療』の伝承と革新、そして新たな時代の幕開け」というテーマのもと充実したプログラムが企画されており、活発な討論・意見交換が行われることを期待したいと思います。

日本薬学会は Chem. Pharm. Bull. (創刊 1953 年)、Biol. Pharm. Bull. (同 1978 年)、薬学雑誌 (同 1881 年) の学術誌 3 誌、ならびに学会の情報誌としてファルマシア (同 1965 年) を発行することにより、また 2018 年 10 月からは生物系のオープンアクセスジャーナルとして新たに BPB Reports の刊行を開始することにより薬学の進展に貢献して参りました。また編集体制を充実させ高質な情報提供を図るとともに、学術誌の査読・編集・出版の迅速化も図ってまいりました。英文 2 誌に関しましては、科学技術振興機構 (JST) の協力を得て、J-STAGE を利用した画面インターフェースの開発を促進し、閲覧の利便性の向上を図っています。さらに、2020 年 1 月より新たに Chem. Pharm. Bull. および Biol. Pharm. Bull. の Newsletter をメールマガジンとして読者へ配信することを開始しました。これにより最新号に掲載された論文の graphical abstracts をご覧いただき、J-STAGE を通じていち早く論文にアクセスいただくことで、被引用回数および当該学術誌へ投稿いただく機会を増やしたいと考えています。

学術情報発信の別の試みとして新刊書籍の出版を予定しています。一般の方々にも創薬について理解を深めていただくために『THE 創薬 - 少資源国家 “にっぽん” の生きる道 -』という書籍の刊行を企画しました。本書では各研究領域を代表する著名な先生方にご執筆いただく予定です。「“新薬開発” 物語」では、日本薬学会創薬科学賞受賞の受賞対象になった医薬品をはじめ種々の医薬品の開発の経緯が語られます。また、「近未来の創薬に向けた最新研究」として、AI やビッグデータを活用した創薬、iPS 細胞やゲノム編集技術の応用などが紹介される予定です。2020 年秋頃の発行に向けて鋭意、編集作業を進めて参りますのでご期待ください。

グローバル化の進展に伴い、国際化は薬学領域に限らず、多くの学会で重要な課題となっています。日本薬学会は、これまで国際薬学連合 (FIP) やアジア医薬化学連合 (AFMC) との連携を積極的に行い、またドイツ薬学会 (DPHG)、韓国薬学会 (PSK)、ドバイ国際医薬品会議 (DUPHAT) との交流など、国際化を積極的に推進してきました。既に、AFMC が主催する AFMC International Medicinal Chemistry Symposium (AIMECS2021) の東京開催が決定しており、この準備を進めると共に FIP が主催する第 8 回 FIP 世界薬学会議 (PSWC2023) の日

本開催誘致に向けての活動を予定しており、こうした活動をより一層充実させて行きたいと考えています。

文部科学省が公表した「2018年度版 科学技術白書」においては、日本の科学力が10年前に比べて大幅に低下したことが報告されました。また、博士課程への進学率も減少し続けており、次世代を担う若い研究者の育成・支援が我が国の国際的科学力を回復させる急務の課題であることも明らかです。薬学はライフサイエンスにおける広範な研究分野と密接に関連する重要な学問領域であり、薬学研究の発展は日本の科学力向上に大きく貢献するものと考えています。日本薬学会は、博士課程への進学を促進させることを目的に、2015年から長井記念薬学研究奨励支援事業を開始し、給付型の奨学金を提供し、全国の学生を支援しています。既にこの制度のサポートを受けた大学院生が博士の学位を取得し、社会で活躍し始めています。また、若手研究者に対する奨励賞の授与、あるいは各支部や部会での奨励賞等の顕彰や各支部大会や部会シンポジウム・フォーラム等で、優秀発表賞等の授与など、様々な顕彰事業を通じて若手研究者の支援に努めています。本年もこうした事業を継続的に行っていききたいと考えています。

II 事業計画事項

1 2020年度代議員総会の開催

2020年3月25日（水）に国立京都国際会館において開催します。

なお、代議員総会は代議員をもって構成する総会ですが、本会会員であれば総会に出席して意見を述べることができます。

2 学術研究・教育活動の推進

1) 学術誌の発行

(1) 発行と情報発信

質の高い研究成果の投稿を促進しながら、出版までの作業を迅速、正確かつ効率的に行い、薬学ならびに関連諸科学の発展に寄与してまいります。国際的価値を高める一環として、投稿規定の刷新を進めてまいります。各誌の特性、Scopeを最大限に活かし、学術論文発表の場の提供と学会賞受賞記念総説の掲載など、誌面の充実を目指します。高度情報化社会の趨勢を視野に、効果的な情報発信を行ってまいります。

本年度の学術誌の発行予定は次のとおりです。

- ・YAKUGAKU ZASSHI（第140巻）年12回
- ・Chemical and Pharmaceutical Bulletin(CPB)（第68巻）年12回
- ・Biological and Pharmaceutical Bulletin(BPB)（第43巻）年12回

(2) 授賞

学術誌発行において審査に貢献した査読者、被引用数の高い論文、掲載数の多い著者（連絡著者に限る）を選考し、賞を授与します。

- ① Top Reviewer Award
YAKUGAKU ZASSHI、CPB、BPB
- ② Highly Cited Review Award

Highly Cited Article Award

CPB、BPB

③ The Most Published Author Award

CPB、BPB

2) 生物系オンラインジャーナル「BPB Reports」の発行

生物系のオープンアクセスジャーナルとして、2018年10月より「BPB Reports」を発行しています。発行責任は環境・衛生部会です。「BPB Reports」の編集委員長が学術誌編集委員会の部門長を兼ねることにより、日本薬学会のジャーナルとしての情報共有と一貫性を保ちます。

3) J-STAGE との連携

国際発信力強化の一環として J-STAGE と連携し、新たな取り組みへの参画、公開内容の充実を図ります。

4) 学術研究集会の開催および部会・支部活動の支援（別紙1）

(1) 年会の開催

年会はひとつの学術大会の枠にとどまるのみでなく、日本の科学研究に貢献する重要な事業であり、本会の目的である薬学の進歩・普及ひいては学術文化発展の実現を支援しています。特に薬学を学ぶ学生にとっては学会との最初の接点となる場であり、また、薬剤師職能団体や製薬企業関係者との相互連携およびドイツ、韓国各薬学会などの国際機関との交流促進の場となっております。

第135年会（神戸）にて開始し、第139年会（千葉）において第5回まで企画・開催したサテライトシンポジウムである「国際創薬シンポジウム」は、年会の国際化へ一定の貢献を果たしました。今後は年会の本プログラムの一部へ組み込み、年会での英語のシンポジウムの開催の奨励や海外からのシンポジストの招へいを支援するとともに、英語での発表のプログラム配置を工夫することなどにより海外からの参加者の利便性を図るなどし、引き続き年会の国際化を推進いたします。

(2) 部会の活動

部会は、薬学研究の高度化と若手研究者・薬学生など次世代を担う優れた人材の育成を共通の主要課題とし、シンポジウム、フォーラム、研究会ならびに顕彰活動などを通じ、各部会の特長に合わせて特色ある活動を進めてまいります。部会活動の円滑化をはかるため、部会長会議を開催し、連絡調整・情報交換を行います。本年度の各部会の活動は（別紙2）のとおりです。

(3) 支部の活動

支部は、会員と日本薬学会との接点の場です。地域薬剤師会との交流、最新薬学講習会、卒後研修会、高校への薬学ガイダンスなど地域に密着した積極的な事業展開を行い、特に6年制の学生の支部大会への参加を積極的に奨励し顕彰するなど、学生会員の確保に繋がるよう努力してまいります。支部長会議では、理事

会の動向を把握し、ともに連携しながら活性化を推進してまいります。本年度の各支部の活動は（別紙3）のとおりです。

（4）創薬セミナーの開催

創薬セミナーは日本薬学会の看板セミナーです。「創薬」を中心テーマとする本セミナーでは、産学官の第一線で活躍する講師の講演を聞き、参加者は忌憚の無い意見を交換します。また、全ての参加者は同じホテルに泊まり、文字通り寝食を共にしながら創薬の夢を熱く語りあいます。本年度もこの基本方針を踏襲します。

本セミナーは、30年にわたり創薬研究者の育成に取り組んできました。創薬への夢をもつ、多数の若い企業研究者が参加していることから、セミナーの使命は十分に果たされているといえます。

2020年度のセミナーでは、日本を支える基幹産業としての製薬業界の今後を展望し、創薬研究の新しい展開を追求できる企画を行います。また、全員参加型セミナーとして、講演や自由討論会をより充実させ、進化したセミナーとなるよう計画します。

5) 学術研究・教育活動の奨励・表彰

（1）研究奨励

日本薬学会では、博士の学位を有する多様な薬剤師あるいは薬学研究者を輩出することを使命として、学位を取得するための研究に専念できる環境を整備するべく長井記念薬学研究奨励支援事業を行ってまいります。2020年度も同様に募集を行い、支援事業の趣旨に沿って選考を行ってまいります。

（2）授賞

日本薬学会の学術研究評価および活性化事業として、会員の卓越した業績に対し、下記の賞について受賞候補者の推薦募集を行います。選考手続きを進めるにあたっては、それぞれの賞の趣旨に沿って選考を行ってまいります。

- | | |
|-----------|--------------|
| ① 薬学会賞 | 4件以内 |
| ② 学術貢献賞 | 6件以内（1件/1部門） |
| ③ 学術振興賞 | 6件以内（1件/1部門） |
| ④ 奨励賞 | 8件以内 |
| ⑤ 創薬科学賞 | 2件以内 |
| ⑥ 教育賞 | 2件以内 |
| ⑦ 功労賞 | 1件以内 |
| ⑧ 佐藤記念国内賞 | 1件以内 |

（3）他機関関係賞などへの推薦

各種財団・機関が募集する関係賞や研究助成などの本会への推薦依頼に対し、内容を検討の上、本会会員より候補者を積極的に推薦します。さらに、国（省

庁)による表彰についても候補者の推薦依頼に応じて同様に推薦します。

6) 薬学教育基盤の整備

日本薬学会にとって「薬学教育」は学会全体として取り組んでいる重要事業です。どの分野に進んでも、今後の科学技術の進歩に対応できる基本的な資質と能力の涵養を図るとともに、国民の期待に応えうる医療人として、生涯にわたって研鑽を続け、社会に貢献していく人材を輩出することも使命としています。日本薬学会は、薬学教育の改善・充実のために、他の薬学関連団体と協力して薬学教育に関する課題の発見・解決に取り組むとともに会員の教育能力の開発および向上を支援する機会を提供してまいりました。

学生、若手教員等を対象としたワークショップの企画・開催、また学会の観点から医療人の資質を確保するための方策を支援します。

また、生涯研鑽支援の見地から、健康サポート薬局に申請する機関の研修プログラムの確認作業を行い、社会貢献を果たします。

3 学会情報の配信

薬学の学術教育研究、医療における薬学の貢献、さらには薬学分野の行政・産業などの最新の動向を、会員間のみならず広く社会と共有し、健康福祉社会の発展に寄与してまいります。会員に対しては、会員のニーズを的確に把握してその満足度の向上をはかり、非会員の薬学関係者に対しては本会活動の意義を理解することで入会を促し、一般（広範な非会員）に対しては、薬学と医薬品に対する関心と理解を深め、本会活動への賛同・支援の獲得に努めていきます。

(1) 社会への発信

日本薬学会では2016年度から男女共同参画推進の取組みを開始し、2017年度には男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー学協会として加盟しました。本会は、新しい未来を創造しながら、生命現象の解明と医薬品の適正使用をめざし、人類の健康と福祉のために着実な発展を続けています。男女共同参画を推進することで、性別年齢を問わず、すべての人が対等な立場で個性と能力を十分に発揮し、自らの希望に沿った形で活躍できる男女共同参画社会の実現に寄与します。本年度も京都年会にて理事会企画シンポジウムを開催し、内閣府、外資系製薬企業、International Pharmaceutical Federation (FIP) からのシンポジスト招聘することとしました。国際的観点から提供いただいたシンポジストからの情報を基に日本の現状を把握するとともに、提言された問題点や改善策などについて議論を深めることで、男女共同参画に対する本会の今後の取組みについて意見交換を行います。

(2) 会誌の発行

薬学は、創薬・生命科学の基礎研究から創薬開発、薬の臨床応用、薬剤師教育まで幅広い領域をカバーし、また日本薬学会は大学等のアカデミアに属する教員、学生から薬剤師、企業人まで広範な会員で構成されています。ファルマシアは会員誌として、会員に広汎な情報を提供するのみならず、学会の広報として内外の情報を分かりやすく、また親しみやすく提供することも目的としています。

また、新規会員の増加につながるよう、創薬に関わる若い研究者、ベンチャーを含む企業、学部学生・大学院生などが興味を持つ読物をさらに充実させて魅力ある雑誌をめざすとともに、広報委員会との連携を図りながら、医療薬学系読者向け分野のテーマの充実を図り、医療系の基礎薬学としての情報発信を図ります。

なお、本学会会員には、購読者番号とパスワードの入力により、本誌発行日にJ-STAGE 掲載のWEB版を閲覧可能としております。また、発行後1年経過した掲載分を全文公開することにより、ファルマシアを広く周知出来るよう情報発信に取り組んでまいります。

(3) ホームページの更新

引き続きアーカイブの整理等を実施し、サーバーのパフォーマンスも改善を図ります。これにより学会の学術活動や事業について迅速な広報を行い、会員の活動に資する最新情報の提供に努めます。YouTubeの専用チャンネル「日本薬学会公式チャンネル」にて小冊子改訂と連動したコンテンツの拡充を実行し、より積極的な活用を目指します。

(4) メールマガジンの配信

メールマガジン「ファームナビ」は年間8報を目処として、会員へ日本薬学会の理事会方針を速やかに伝達し、情報の共有化を行います。また、学術誌編集委員会と連携し、新たに会員や、学術誌著者宛に配信される英文メールマガジンでの情報発信を開始する予定です。

(5) 報道機関対応

メディア（報道機関）に対して、薬学に関連する最新情報の提供と意見交換の場を設けることで、報道機関を通して社会へ向けて開かれた学会窓口の構築に努めます。

(6) 刊行

好評を得ている薬学に関する普及啓発誌2種（「これから薬学をはじめるあなたに」「高校生のための薬学への招待」）は改訂作業を継続し、2020年度夏までに改訂版を発行します。また、会員増強のためのリーフレットでは、マスコットキャラクター（ナガイ博士とドリン君）を積極的に活用しながら、4月までに改訂版を発行する予定です。

(7) 将来構想の検討

時代の変化に合わせた、より有益な広報活動を目指し、継続的事業に対する評価と新規事業の検討を行います。

4 他機関との交流協力とグローバル化の推進

他機関との交流と協力をはかり、広く社会に貢献します。

(1) 共同主催、共催、後援、協賛

日本学術会議における薬学研究者の活動を支援するため、シンポジウムを共同で主催します。また、本会と密接な関係を持つ団体が主催する関連学術集会（国内、国際）の共催、後援、協賛を行います。

（２）グローバル化の推進

①国際薬学連合（FIP）に関する活動

全世界 400 万人の薬剤師および薬科学者を擁する FIP に Member Organisation として加盟し、世界における本会のプレゼンスを高めるべく活動しています。活動の成果を発表するべく、第 140 年会（京都）でも「FIP フォーラム」を開催します（テーマ「患者エンパワーメントの国際動向と我が国の展望」）。また、FIP2020 年会（2020.9.13-17、セビリア）への代表者派遣等を行います。日本 FIP 連絡会議に、FIP に加盟する他の国内 3 団体とともに参加し、共通の利害関係事項に関して協力して対処しています。FIP 主催「PSWC (Pharmaceutical Sciences World Congress) 2023」が日本で開催されるべく、引き続き招致活動を行います。

②その他の国外団体との交流

・ドイツ薬学会（DPhG）

第 140 年会に同会代表者 2 名を招待し、特別講演を開催します。また、第 38 回メディシナルケミストリーシンポジウムに同会から講師 1 名を招待します。

・韓国薬学会（PSK）

同会年会に本会代表者を派遣します。また同年会にて、同会および本会からそれぞれ講師 2 名が参加する合同シンポジウムが開催される予定です。

・DUPHAT (Dubai International Pharmaceuticals and Technologies Conference and Exhibition) 主催者からの要請に応じ、「DUPHAT 2020」(2020.2.25-27、ドバイ)に講師 1 名を派遣します。

・アジア医薬化学連合（AFMC）主催「AIMECS (AFMC International Medicinal Chemistry Symposium) 2021」(2021.11.29-12.2、東京)を開催するための準備を行います。

5 学会基盤の整備・確立

1) 会員関連

（１）会員増強への取り組み

日本薬学会は、社会的要請に応え薬剤師養成の任を果たすとともに、日本のアカデミアおよび創薬研究において、有機化学、生物学、分析・物理化学の観点から大きな貢献を果たしてきました。

特に、研究集会開催などによる学術研究への寄与、国際化や薬学教育改善への取り組み、薬学生への支援事業など活動は多岐に渡っています。

次世代の更なる発展へ向けて、これらを一層充実するためにも、学会活動の基盤となる会員増強を目指し、関係部署と連携を図り、積極的な対策を検討します。

また、機関会員である賛助会員に向けて、さらに魅力ある学会となるよう既存の優遇制度の見直しを諮ります。

加えて、薬学紹介用リーフレットを配付し、薬学会を広く周知するための努力を重ねます。

(2) 名誉会員、有功会員ならびに永年会員の推薦

定款第5条に基づいて、代議員総会において名誉会員を決定し、理事会において有功会員および永年会員を決定します。

2) 長井記念館の維持管理

現長井記念館は竣工から約30年が経過し、今後、修繕費の一層の増加が見込まれます。大規模修繕の一環としての空調改修工事は2019年3月に無事終了いたしました。以降の修繕計画についても、本会が主体的に検討し、本館の管理代理者であるエム・ユー・トラスト不動産管理株式会社とともに会館の改修・諸設備の保守営繕を策定・実行いたします。

3) 賃貸収入と会館の運営

公益社団法人日本薬学会では、収益事業である会館の賃貸利益の多くを、公益事業である本部・支部・部会の学術事業に繰り入れております。このように、本学会の運営において、長井記念館は大きな財政基盤となっており、その維持・更新は不可欠なものであります。従って、会館への再投資のための準備金の積立を計画的に行う必要があります。本学会では、変化する社会情勢に対応して、学会運営を可能とするため、専門家の意見も積極的に取り入れ長期的な視点で堅実な計画を立ててまいります。

また、良質なテナントの確保に努めることにより、適正な収入を受理できるよう努めます。会館の各施設および設備の向上を積極的に計ることで価値を高めるため、最近では、大規模空調工事を始めとして、地下2階の喫煙所の撤去、地下2階ホールのWi-Fi環境の改善、1階貸し会議室の内装更新、事務局セキュリティの強化、等を行っています。